



だより



R6.5.28 Vol.8

うちの生徒指導主事

子供たちの生活指導の中心になって動く生徒指導主事。N先生に任せています。N先生、毎朝、校門付近に立ち、子供たちを迎え入れています。N先生を観察していると、面白いことに気づきました。「お！今日もみんなが来た！来た！来た！」とか「今日は傘を差してやって来たぞ！」とか「おや！元気な話し声が聞こえてきた！」とか。その状況をいちいち言葉にします。まるで茶番劇…いや、もとい、一人芝居を見ているようです。(隣で爆笑しています。)でもこのつぶやき？大きな独り言？は子供たちとの朝一の会話のきっかけになっています。その声に気づいた子供たちがN先生と目を合わせ、「おはようございます！」とハイタッチし、一日が始まります。常に子供の目線に合わせているN先生。私も今度、一人芝居に挑戦してみようかな(笑)

あのね…

「ねえねえ！校長先生！今日ね…」そう言って話しかけてくる女の子がいます。顔をじっと見てくる子供もいます。先日、3年生教室に行ったとき、ある男の子が「校長先生！この本、おもしろいよ。」と一冊の絵本を差し出してきました。すぐ読めるくらいのページ数だったので、その場で読み、顔をあげると、その子が私の方を見えています。「ほんと！おもしろいね。」と声をかけると、嬉しそうな笑顔がこぼれました。様々な子供がいますが、どの子供も「自分を認めてほしい。」そんな気持ちがあるのだと思います。我が子を愛していることはもちろんです。でもそれを子供に伝えているでしょうか。直接「愛してるよ！」なんて言う必要はないです。(言ってもいいです)子供たちが発するいろいろな「あのね…」学校でも家庭でも大事にしていきたいですね。



四方山話真穴 ver. 其の八(ChatGPTに思う)

初めに言い訳しますが(笑)、ChatGPT(生成AI)については、最近、触り始めたばかりなので、使いこなしている方から見ると、『なんだ！そんなことか？』という内容です。あらかじめご了承ください。

以下「私」と『ChatGPT』のやりとりです。(紙面の都合上、省略する内容もあります。)

「楽しい便りを出したいんだけど。」『素敵ですね。特定のピックやテーマはありますか？』『校長の立場で学校の様子を伝えたい。』『こんなこと(いくつかアイデアが表示されました)を伝えてはどうですか？』『子供の成功体験(アイデアのひとつにありました)を伝えるのはいいね。でも成功体験がない児童が、もし居たら？』『その場合はこんなこと(省略)に焦点を当てればいいのかもかもしれません』まずは、ここまでのやり取りですが、正直、ChatGPTの提案は私が予想する範囲を超えることはありませんでした。ただ、これが教師1年目とかであれば、すごく参考になるのでは？と感じた内容でした。もう少し続けてみました。「ところで、そんな内容の便りんだけど、何かいいタイトルないかな？』『みんなの輝く瞬間、挑戦と成長、etc』『ちょっと堅苦しいかな。もう少し砕けたタイトルない？』『みんなのウキウキ日誌、すごいことやっちゃった！etc』『もうない？』『ヒーロー登場、校内ワクワク日記とか、いかかでしょう』そんなやりとりになりました。(決して遊んでいるわけではありません。笑)

今はシンプルに「校長室だより」としていますが、「校長室ウキウキ日記」とかにしても楽しいかもしれませんね。ご存じの方も多いと思いますが、AIは、いわゆるビッグデータの中から言葉を選択します。その情報量に太刀打ちできる人間はおそらくいないでしょう。適材適所という言葉があるように、人も要は使いどころ！スポーツや武道においても、選手や技は使いどころ！ですよね。日々の生活の中で、その選択肢の中に生成AIが入ってもいいのではないかと感じます。ただ、AIに依存してしまうと、情報が偏ったり、思考力が低下したり。そんなことを危惧します。あくまで「主体は自分！」であること。AIが出す回答に常に「それってほんと？」という意識を持つこと、ここをしっかり押さえておけば、心強いパートナー(ツールかな？)になってくれると思います。